

(1面)

【タイトル】

「アフリカ・日本間の会議はアンゴラなしではインパクトに欠ける」

(2面及び3面)

【タイトル】

政治・外交分野における協力は貿易への関心に係るダイナミズムと比して遅れをとってははいない。

【前文】

アンゴラ政治状況は極めて安定しているが、昨今の国内市場における輸入向け外貨不足に起因し、先進国との貿易量は大きく減少した。本紙に対し、澤田洋典駐アンゴラ日本国大使は、2018年の二国間貿易額は、日本からアンゴラへの輸出額は2000万米ドル、日本からの輸入額は3億3500万米ドルであったのに対し、2017年は日本からアンゴラへの輸出額は3140万米ドル、日本からの輸入額は2億6290万米ドルであったと述べた。右事実にも拘わらず、日本はアンゴラあとの関係強化を重視し、保健、教育、インフラ部門のプロジェクト支援を行っている。

【本文】

(問) 日本にとってアンゴラの重要性は如何。

(答) まず世界情勢の中のアフリカの立ち位置、アフリカ大陸の経済成長及び人口増加につき触れたい。2001年から2017年にかけての世界経済の平均経済成長率は3.1%であったのに対し、サブサハラアフリカは5.1%であった。アフリカの経済成長は特記に値する。そしてアンゴラはこの例外ではない。アンゴラの政治状況は極めて安定しているとみている。2017年に実施された大統領選挙は、非常に平和的且つ民主的に行われた。我々は至って平和的な政治転換を目の当たりにした。この事実はいかなる国と関係を持つ中で重要な要素である。次にアンゴラ経済のポテンシャルがある。石油や鉱物資源の他、農業に必須である広大な土地と豊富な水資源を有している。

(問) 世界経済を代表する国の大使として今日どのようにアンゴラ経済と対峙しているか。

(答) サブサハラアフリカの経済成長は極めて高いと述べたが、アンゴラやナイジェリア等の国々については豊富な資源を有しているが状況は異なる。これらの国々の状況は相反するものであり、低成長を続けている。アンゴラについて言

例えば、2014年以降経済危機に陥っていると言える。この状況下において、アンゴラは経済多角化を図り、経済危機脱出を試みている。2002年以降国家再建を目指し、多額の融資を元手に経済成長を記録してきた。アンゴラは大きな債務を抱えており、経済成長・多角化が必要とされている。係る状況下において、日本はアンゴラとの関係性強化を重視している。

（問）日本は常にアンゴラとの関係強化を念頭に置いているが、中国がアンゴラに進出し、アンゴラにとって最大規模の貿易相手国となった点をどのように見るか。

（答）アンゴラ・中国関係については、とりわけ内戦終了以降フォローしている。アンゴラ再建プロセスに融資を供与した国は多くない中、中国は鉄道、港湾、空港、集合住宅地等のインフラ事業に融資を行った。これは一つの事実である。これらの中国による事業展開をフォローする一方で、日本は中国と少し異なる手法にてアンゴラを支援している。日本は保健、教育、インフラ分野に支援を行っている。中国が実施したようなプロジェクト融資は出来ないが、技術を移転することは出来る。日本は独自のプライオリティーを持っている。

（問）1976年以降の長年に亘る政治・外交部門での協力にも拘わらず、相互投資保護協定などに代表される重要な協力協定に未だ署名がなされていないのは何故か。加えて在アンゴラ日本国大使館は2000年に、在京アンゴラ大使館は2005年に開館している。

（答）1977年からアンゴラ内戦が終結した2002年にかけては困難な状況が続いた。内戦中では大使館を立ち上げることは難しかったが、同期間、日本は出来る限りのことを行った。内戦後、ようやく大使館を設立することが出来た。

（問）2015年に当地で開催された日アンゴラ投資セミナーには150名を越える日本の企業家が集まり、アンゴラへの投資を約束した。政治・外交分野における協力は両国の企業家の貿易に対する関心に対し遅れをとっているか。

（答）その理解は間違っている。政治・外交分野での協力は貿易部門のダイナミズムに対して遅れをとっていない。アンゴラと日本の政治関係は常に良好であった。自分（澤田大使）が大使を務めている過去2年間半の間、二国間で要人訪問が実施された。例を挙げるならば、ロウレンソ大統領の就任式には日本の外務副大臣が参加した。同式典に参加したアジアからの特使の中では最上級のレベルであったと思う。政治・議員間交流を目的とし、多くの国会議員が来訪している他、5月には、日本の外務大臣がアンゴラを訪問した。アンゴラ側に関しても、ロウレンソ大統領の就任以来、7閣僚が訪日しており、政治関係は極めて

良好と言える。

(問) 昨今の日本からの投資の代表例は総額6億米ドルとされるナミベ港改修(ママ)への融資であるが、同プロジェクトの進捗如何。

(答) 2002年に平和が訪れた後、アンゴラ政府は港湾部門における調査を依頼した。日本政府はJICAを通じ、アンゴラにおけるインフラ再建に係る緊急調査を実施した。同調査は国内の4つの港(ルアンダ、カビンダ、ロビト、ナミベ各港)に向けて実施され、中でもナミベ港の老朽化は深刻で、資金投入を必要としていた。当該報告書に基づき、アンゴラ政府は、日本政府の協力のもと同港の改修を行うことを決定し、改修工事が開始された。今年8月に第二フェーズが終了した。これに続き、約6億米ドルのプロジェクトが豊田通商によって実施される。

(問) 日本はこれまでに学校建設に対して多くの融資を行ってきた。何故教育分野なのか。

(答) 教育分野は国が成長するために最も重要な分野の一つである。教育と人材育成なしに国は成長しない。日本は教育を極めて重視する。2002年の第一フェーズ、2005年から2006年にかけての第二フェーズにかけて、日本政府はルアンダに所在する小学校の改修・建設事業を多数行った。第一フェーズには200万米ドル、第二フェーズには1700万米ドルを拠出した。草の根無償資金協力のスキームを通じ、様々な州において小規模な学校の建設を継続して支援している。ルアンダでの学校の改修を行った後、様々な州において17校の改修を実施した。毎年新しい学校を1から2つ建設している。

(問) アンゴラは日本から自動車、機械類、鉄製品等を輸入している。日本のアンゴラからの輸入は石油がほとんどである。昨年の二国間貿易量は如何。

(答) 2018年、日本からアンゴラへの輸出額は2000万米ドルであった。反対に日本はアンゴラから3億3500万米ドル相当の輸入を行った。日本の輸入のほぼ100%は石油である。日本からの輸出の多くは機械類である。アンゴラ市場における外貨不足のため、近年日本からアンゴラへの輸出は大きく減少した。アンゴラ経済の改善と共にアンゴラから日本への輸出が増加することを期待する。

(問) 外交官として、日本の企業家との面談を持ってきていると思うが、アンゴラにおいて投資を行う際、どのような分野を提案するか。

(答) 日本の企業家がアンゴラにおいて計画しているプロジェクトは多々あり、アンゴラ側が日本の投資家の参加を募っているプロジェクトも多い。例えば、アンゴラ政府はロビト（ベンゲラ州）に精油所の建設を計画しており、1社の日本企業が参入に関心を有している。日本の企業家に対し、同分野への投資を呼びかけている。

(問) 既に同関心についてアンゴラ側に伝えているか。

(答) 然り。本件についてソナンゴル取締役会会長と複数回面談を行っており、同社の関心について伝えている。アルジェリア等、世界各国において精油所建設に携わっており、最近の例を挙げるとすると、ベトナムでの建設に携わり、右精油所のアイデアはアンゴラがロビト精油所に求めている展望に合致する。

(問) 日本は伝統的な自動車産業を有する。アンゴラに自動車組立工場を設立することに興味を有する自動車業界の企業はあるか。

(答) 自動車組立工場を建設するためには、市場規模、競争力（費用対効果）、人材、技術、外貨アクセス等、様々なファクターを観察する必要がある。決定を行うのは企業であるが、既に述べた条件が整わない限り、今日のアンゴラ経済の実情に鑑み、日本の企業家が当地での自動車組立工場の建設を決定するとは思えない。将来的には、状況が変わることもある。今のアンゴラで行えることとして、日本及びブラジル政府の協力のもと、10月にトヨタ・デ・アンゴラがカゼンガ（ルアンダ州）に人材育成所を開所する。トヨタ・デ・アンゴラはアンゴラ人人材を育成する。これにより、アンゴラで自動車組立工場を建設するためのよりよい環境が作られることになる可能性はある。しかしながら、これは既に述べたファクター一次第である。

(問) アフリカ大陸において、他のアフリカ諸国との関係の中で日本はアンゴラをどこに位置づけるか。

(答) アンゴラが1番ないし2番であると確約することは出来ない。二国間関係というものはそういうものでない。しかし、アンゴラは最近日本の外務大臣が訪問した数少ないアフリカ諸国の一国であり、SADCの中では唯一の訪問国である。これは日本政府がアンゴラとの協力を重視しているという証左である。

(問) 28日から30日にかけてロウレンソ大統領が横浜で開催されるTICAD7に参加する。今年5月には河野外務大臣がアンゴラを訪問し、ロウレンソ大統領のTICAD7への参加を依頼した。日本政府にとってロウレンソ大統領が同会議に参加する重要性はどれほどか。

(答) T I C A Dは日本政府がアフリカ各国に対する政策を決定する上で重要なプラットフォームである。ロウレンソ大統領のT I C A D 7への参加は極めて重要であり、アンゴラ大統領の参加なしではT I C A D 7のインパクトが弱まる。8月28日～30日にかけて横浜で開催されるT I C A D 7において、ロウレンソ大統領は政策決定に影響を与えることが出来る。アンゴラ大統領の出席は非常に重要であり、経済改革、ビジネス環境改善、民間セクターの発展、強靱性・持続可能性ある社会の促進等の主要テーマはアンゴラが推進する開発プロジェクトの内容に沿うものである。

(問) 国連及び世銀の共催にて横浜で開催される同会議には4500人の参加者が想定される。アンゴラは同国際会議の場をどのように活用することが出来るか。

(答) T I C A D 7開催中、様々なレベルでの二国間協議が行われる(政府同士、政府と民間、民間同士)。安倍総理は全てのアフリカ諸国を訪問することが難しいため、アフリカのリーダーと二国間協議を行うためT I C A Dは極めて重要な機会であると見ている。

(問) 初開催から25年を迎えるT I C A D 7において、ロウレンソ大統領の参加に何を期待するか。

(答) ロウレンソ大統領は、T I C A D開催中、日本の民間セクターと接触する機会を持つことになり、アンゴラの開発に向けたビジョン、ガバナンスへの展望、日本の投資獲得を期待するセクターの紹介等を発信することが出来る。これまでのT I C A Dは成功を収めてきており、アフリカ諸国との対外政策、企業家との対話を強化するために極めて重要なプラットフォームであることは強調しておきたい。

#### ●最近のアンゴラ・日本関係

2019年：アンゴラ政府は地デジ日本方式を採択

2018年：NECからAngola Cablesへの南大西洋ケーブルシステムの引渡し

2016年：丸紅による国内繊維工場の改修終了(ルアンダ、ベンゲラ、クアンザ・ノルテ(ドンド))

2008年：地雷除去に向けた官民連携の確認

#### ●アンゴラに事務所を構える日系企業

トヨタ・デ・アンゴラ、住友商事、丸紅、JASA、AJOCO、日立建機、横

河電機, コマツ

● 2017年の二国間貿易

日本の対アンゴラ輸出：3140万米ドル（自動車, 鉄製品, 機械）

アンゴラの対日本輸出：2億6290万米ドル（燃料, 鉱物）

● プロフィール

氏名：澤田洋典

学歴：東京外国語大学外国語学部ポルトガル語学科卒（1980年）

職歴：

外務省人事課企画官（2015年～）

在シカゴ総領事館首席領事（2010年～）

在ブラジル大使館政務参事官（2007年～）

外務省中南米局課長補佐（ラテンアメリカ・カリブ局）（2004～）

外務省総合外交政策局課長補佐（2001年～）



# Jornal de Angola



■ PRESIDENTE DA REPÚBLICA NA CIMEIRA DE YOKOHAMA

## Transformações económicas apresentadas aos japoneses

O Chefe de Estado, João Lourenço, apresenta, na quarta-feira, à Conferência Internacional de Tóquio sobre o Desenvolvimento de África (TICAD), em Yokohama (Japão), os desafios do país durante uma intervenção no painel "Acelerar a transformação económica e

melhorar o ambiente de negócios através da inovação e envolvimento do sector privado". O Presidente da República deixou ontem Luanda e desembarca amanhã na cidade de Tóquio, para participar na sétima edição da TICAD. À margem do evento vai encontrar-

se, quinta-feira, com o Primeiro-Ministro do Japão, Shinzo Abe. Sexta-feira, último dia de trabalhos, João Lourenço participa, com outros convidados, no "Chá da Tarde", oferecido por Naruhito, Imperador do Japão, no Palácio Imperial, em Tóquio. POLÍTICA 4



### NESTA EDIÇÃO

ADRIANO B. DE VASCONCELOS

A cultura antes do fim da cultura  
OPINIÃO - 7

DEBATE ALARGADO



Impacto ambiental das barragens vai à discussão pública em Luanda  
ECONOMIA - 13

SEGUNDA FASE

Ex-militares pensionistas fazem prova de vida em Malanje  
POLÍTICA - 4

"NJINGA MBANDE"



Seminário sobre o semba decorreu na Casa da Cultura do Rangel.  
CULTURA - 27

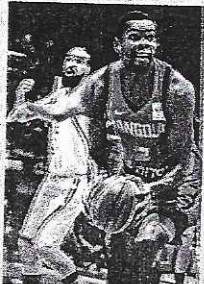
GOVERNO CESSANTE

Serviços secretos da RDC exigem auditoria às contas  
ÁFRICA - 10

MUDANÇA DE ATITUDE

Donald Trump recua na escalada da guerra comercial contra a China  
MUNDO - 11

TORNEIO DE BASQUETEBOL



Seleção masculina tenta em Seul triunfo inédito  
DESPORTO - 31

■ EMBAIXADOR DO JAPÃO, HIRONORI SAWADA

## "A conferência África-Japão sem Angola teria menos impacto"

ENTREVISTA - 2 | 3



M.MACHANGONGO | EDIÇÕES NOVEMBRO

■ PLANO DE ACÇÃO É APRESENTADO AMANHÃ AOS DEPUTADOS

## Homenagem às vítimas dos conflitos vai ao Parlamento

ÚLTIMA - 32

■ RELATÓRIO

### Moçambique admite falhas no combate à corrupção

O Governo moçambicano reconhece, num documento de 50 páginas, que subsistem falhas na estratégia de combate à corrupção, apesar de terem sido tomadas várias medidas pelas autoridades, refere o "Relatório sobre Transparência, Governação e Corrupção" elaborado pelo Executivo e divulgado, sábado, em Maputo. ÁFRICA - 10



CONTREIRAS PIPA | EDIÇÕES NOVEMBRO

■ AFROTAÇAS

### Vitória do Petro

DESPORTO - 31

■ MINISTRO DA COMUNICAÇÃO SOCIAL

### Comparar fogos em África aos da Amazónia é "nonsense"

O ministro da Comunicação Social, João Melo, afirmou ontem, na sua conta no Twitter, que comparar as queimadas que se fazem para a lavoura em vários países africanos do centro-sul, como Angola, com os fogos da Amazónia "é um completo nonsense". "O artigo atribuído à Bloomberg afirmando, com base em fotos da NASA, que há mais fogos em Angola, Congo e outros países do centro-sul de África do que na Amazónia tradicionais nesta região, com o incêndio da maior floresta do mundo?", escreveu João Melo. SOCIEDADE - 28





■ **EMBAIXADOR DO JAPÃO, HIRONORI SAWADA**

# “A cooperação político-diplomática não está atrasada em relação à dinâmica dos interesses comerciais”

O contexto político em Angola “é muito estável”, mas as trocas comerciais com um dos países mais desenvolvidos do mundo caíram consideravelmente nos últimos anos, sobretudo, por falta de divisas no mercado cambial angolano para as importações. O embaixador do Japão em Angola, Hironori Sawada, ao *Jornal de Angola*, indicou que o volume comercial entre os dois países, no ano passado, foi de 20 milhões de dólares (exportações do Japão para Angola) e de 335 milhões de dólares (importações do Japão) contra os 31.4 milhões de dólares (exportações do Japão para Angola em veículos, produtos siderúrgicos, máquinas) e 262.9 milhões de dólares (importações do Japão em combustíveis e minerais) de 2017. Ainda assim, o Japão dá prioridade ao incremento das relações com Angola, onde apoia projectos nas áreas da Saúde, Educação e Infra-estruturas

Santos Vilola

**Qual é a importância que o Japão dá à cooperação com Angola?**

Primeiro, gostaria de assinalar a emergência de África no contexto mundial, o crescimento económico e populacional deste continente. A taxa média de crescimento económico dos países da África subsaariana foi, entre 2001 e 2017, de 5,1 por cento, enquanto a taxa média do Mundo inteiro foi de 3,1. Portanto, o crescimento económico de África é muito acentuado. E Angola não é excepção. Acho que o contexto político em Angola é muito estável. Tivemos eleições, em 2017, muito pacíficas e democráticas. Vimos uma transição política muito pacífica. Isso é um factor importante para termos uma relação estável com qualquer país. Segundo, vemos potencial na economia angolana, tem petróleo, mas tem também recursos minerais, muita terra e muita água, recursos importantes para a agricultura.

**Como o embaixador de uma das economias mais poderosas do mundo encara hoje a economia angolana?**

Disse que o crescimento económico da África subsaariana é muito alto, mas não é o caso de países como Angola e a Nigéria, embora com muitos recursos naturais. Em relação a esses países a situação é contrária. O crescimento tem sido baixo. Em relação a Angola, podemos dizer que a economia está em crise desde 2014, mais ou menos. Nestas circunstâncias, vemos que Angola está a tentar diversificar a economia, está a tentar sair da crise. Embora tenha, desde

2002, registado um crescimento económico, precisou muito de financiamento para a reconstrução. O país tem uma elevada dívida pública, mas precisa de crescer e diversificar a sua economia. Com todas estas circunstâncias, o Japão dá prioridade ao incremento das relações com Angola.

**Sempre que o Japão pensa em reforçar a cooperação com Angola, olha ou não para a velocidade com que a República Popular da China chegou a Angola e se tornou num dos maiores parceiros comerciais? Acompanhamos as relações entre Angola e a República Popular da China, principalmente logo após a paz em Angola. Não foram muitos países que se disponibilizaram a financiar a reconstrução de Angola, enquanto a China apareceu com financiamento em obras de infra-estruturas ferroviárias, portuárias, aeroportos e a construção de centralidades. Acho que isso foi um facto. Acompanhamos este movimento da China, mas o Japão também sempre apoiou Angola de maneira um pouco diferente. Apoiamos Angola nas áreas da Saúde, Educação e Infra-estruturas, mas não podemos financiar projectos como a China o fez, mas podemos transferir tecnologia. Portanto, o Japão tem as suas prioridades:**

**Qual é a explicação para, em tantos anos de cooperação político-diplomática, desde 1976, não terem sido assinados ainda importantes instrumentos de cooperação, como por exemplo um acordo de protecção recíproca de investimentos, e a acrescentar o facto da Embaixada em Angola no**

**“O país tem uma elevada dívida pública, mas precisa de crescer e diversificar a sua economia. Com todas estas circunstâncias, o Japão dá prioridade ao incremento das relações com Angola”**

**Japão ter sido inaugurada apenas em 2000 e a do Japão em Angola em 2005.**

Tivemos certas dificuldades no período de 1977 a 2002, quando Angola acabou com a guerra civil. Portanto, ficou difícil estabelecer uma Embaixada japonesa em Angola durante a guerra. Entretanto, fizemos o máximo possível durante todo esse período. Só depois da guerra civil conseguimos instalar uma Embaixada em Angola. Num seminário realizado em



## Últimos desenvolvimentos das relações Angola-Japão

**2019:** O Governo de Angola adopta a norma japonesa da televisão digital.

**2018:** Entrega dos Sistemas de Cabos do Atlântico Sul (SACS) da empresa japonesa NEC Corporation à empresa angolana Angola Cables S.A

**2016:** Conclusão da reabilitação das fábricas têxteis em Luanda, Benguela e Cuanza-

**Luanda, em 2015, mais de 100 homens de negócios japoneses estiveram presentes para manifestar a sua vontade em investir em Angola. Sente que a cooperação político-diplomática está um passo atrasado em relação à dinâmica dos interesses comerciais dos empresários dos dois países?** Não. A cooperação político-diplomática não está um passo atrasada em relação à dinâmica dos interesses comerciais. As relações políticas sempre foram boas. Entenda que durante os últimos dois anos e meio, período em que sou embaixador, houve troca de visitas de personalidades importantes dos dois países. Por exemplo, na investidura do Presidente João Lourenço, o Governo do Japão foi representado pelo ministro de Estado dos Negócios Estrangeiros, acho que foi o mais alto representante do Governo de um país asiático nesta cerimónia. Além disso, vários grupos parlamentares japoneses estiveram em Luanda para o intercâmbio político-parlamentar e, em Maio do ano passado, voltámos a receber aqui em Angola a visita do nosso ministro dos Negócios Estrangeiros. Da parte de

Angola, desde a posse do Governo do Presidente João Lourenço, sete ministros angolanos visitaram o Japão. Portanto, as relações políticas têm estado muito boas.

**O investimento mais conhecido nos últimos anos do Japão em Angola é o financiamento à reconstrução do Porto no Namibe, avaliado em cerca de 600 milhões de dólares. Como está este projecto?**

Depois da paz, em 2002, o Governo de Angola solicitou uma pesquisa na área portuária. O Governo do Japão, através da Agência de Cooperação Internacional do Japão, efectuou uma pesquisa de emergência para a reconstrução das infra-estruturas de Angola. Essa pesquisa abrangeu quatro portos de Angola, o de Luanda, Cabinda, Lobito e do Namibe, e concluiu-se que o Porto do Namibe era o que estava mais degradado e que mais precisava de investimento. Através deste relatório, o Governo angolano decidiu fazer uma reabilitação com a cooperação do Governo japonês. Começamos a obra de reabilitação. Fizemos a reabilitação em duas fases. A conclusão da segunda fase

aconteceu no início deste mês (Agosto). Agora, temos um projecto avaliado em cerca de seis milhões de dólares que vai ser implementado pela Toyota Construções no Porto do Namibe.

**O Japão, num passado recente, apostou mais no financiamento de projectos de construção de escolas. Por que o sector da Educação?**

O sector da Educação é um dos mais importantes para um país crescer, porque sem educação, sem formação, um país não cresce. E nós damos muita importância ao sector da Educação. Fizemos uma série de reabilitações e construções de escolas primárias aqui, em Luanda, em duas fases, a primeira em 2002 e, depois, em 2005 e 2006. Investimos 2 milhões de dólares na primeira fase e 17 milhões na segunda. Continuamos a construir pequenas escolas em várias províncias, no âmbito da assistência a projectos comunitários. Depois da reabilitação das escolas de Luanda, fizemos mais 16 escolas em várias províncias. A cada ano construímos uma ou duas escolas.

**Angola importa do Japão automóveis, máquinas, produtos de aço, etc. As importações do Japão a partir de Angola são dominadas pelo petróleo. Qual é o volume das trocas comerciais do ano passado?**

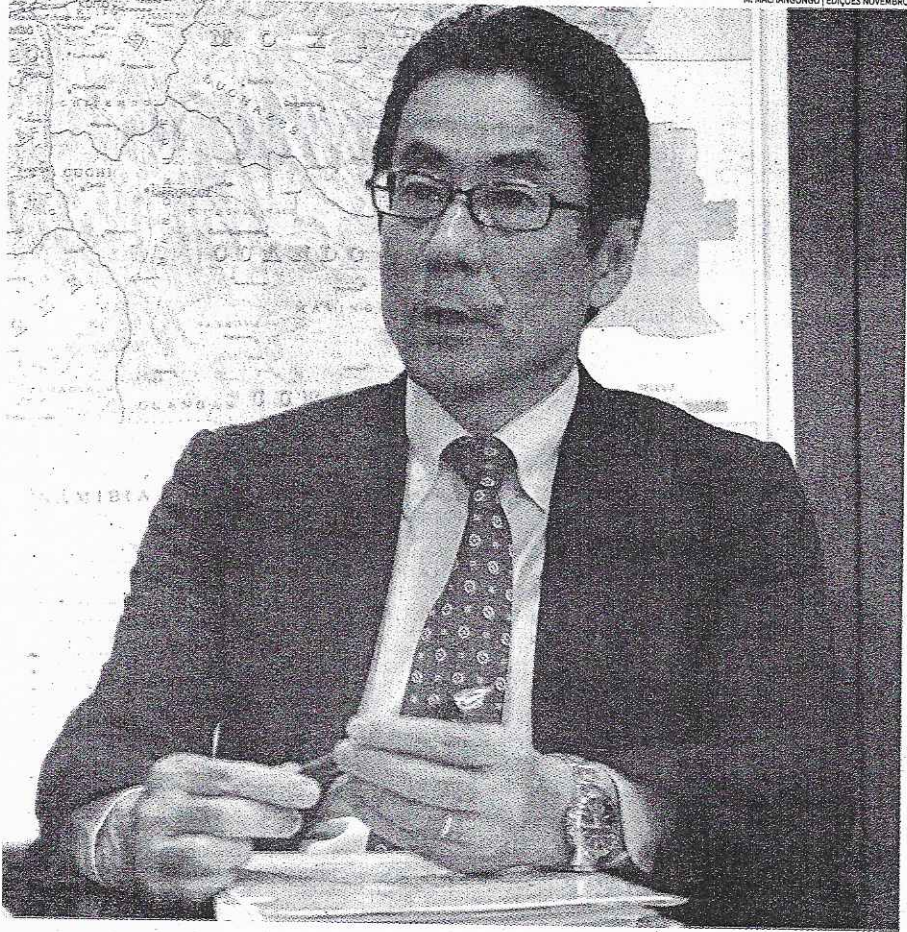
O volume comercial entre os dois países foi de 20 milhões de dólares que o Japão exportou para Angola. De Angola, o Japão importou 335 milhões de dólares. Tudo em 2018. O nosso





(3 面)

M. MACHANGONGO | EDIÇÕES NOVEMBRO



**“A TICAD 7 sem a presença de Angola teria menos impacto”**

O Chefe de Estado angolano, João Lourenço, participa, a partir de quarta-feira até sexta-feira, em Yokohama, na sétima edição da Conferência Internacional de Tóquio sobre o Desenvolvimento de África (TICAD). Esteve, em Maio último, em Angola, o ministro dos Negócios Estrangeiros japonês, Taro Kono, a convidar o Presidente João Lourenço. Que importância atribui o Governo do Japão à presença do Chefe de Estado angolano na conferência?

A TICAD é uma plataforma importante para definir a política do Governo do Japão em relação aos países africanos. É muito importante a participação do Presidente João Lourenço nesta cimeira, porque a TICAD 7 sem a presença de Angola teria menos impacto. O Presidente de Angola pode influenciar na formação de políticas durante a TICAD 7, que se realiza de 28 a 30 deste mês, em Yokohama. Portanto, a presença do Presidente angolano é muito importante, até porque os principais temas, como a transformação económica, melhorar o ambiente de negócios e desenvolvimento do sector privado, a promoção de sociedades resilientes e sustentáveis, estão em linha com os seus projectos de desenvolvimento do país.

São cerca de 4.500 pessoas aguardadas em Yokohama, para a conferência que conta com a parceria

das Nações Unidas e do Banco Mundial. O que Angola pode aproveitar desta Conferência Internacional?

À margem da TICAD 7 deve acontecer uma série de encontros bilaterais (Governo - Governo; Governo - sector privado e entre privados). O Primeiro-Ministro japonês, Shinzo Abe, como não pode visitar todos os países africanos, vê na TICAD uma oportunidade muito importante para discutir assuntos bilaterais com os líderes de Estados africanos.

O que se pode esperar da presença do Presidente João Lourenço na TICAD 7, que assinala os 25 anos de conferências África - Japão?

O Presidente João Lourenço vai ter uma oportunidade para interagir com o sector privado japonês, à margem dos encontros da Conferência Internacional sobre o Desenvolvimento de África, para mostrar o que Angola está a projectar para o desenvolvimento e as perspectivas de governação, e apresentar sectores em que pretende atrair investimento japonês. Gostaria de acrescentar que temos realizado com sucesso a Conferência Internacional de Tóquio sobre o Desenvolvimento de África, uma plataforma importante para reforçar a política externa e o intercâmbio empresarial com os países africanos.

produto de importação é quase 100 por cento o petróleo. As nossas exportações são, sobretudo, máquinas. As exportações japonesas para Angola caíram muito, nos últimos anos, por falta de divisas no mercado cambial angolano. Espero que as importações de Angola ao Japão aumentem com o melhoramento da economia angolana.

**Como diplomata, nos encontros que tem tido com empresários japoneses, que sectores normalmente aconselha para investir em Angola?**

Há muitos projectos que empresários japoneses estão a planificar para Angola e muitos que Angola está a promover e a convidar para que empresários japoneses participem. Por exemplo, o Governo angolano pretende construir uma refinaria no Lobito (Benguela) e uma empresa japonesa está interessada em participar neste projecto. Tenho encorajado os empresários japoneses a investir neste sector.

**Já transmitiu às autoridades angolanas esta manifestação de interesse?**

Sim. Conversei várias vezes com o presidente do Conselho de Administração da Sonangol sobre o assunto, e transmiti este interesse. Investimos em refinarias em muitos países, entre os quais Argélia e, recentemente, construímos uma refinaria, igual a que Angola perspectiva para o Lobito, no Vietname.

**O Japão tem uma indústria automóvel tradicional. Alguma empresa japonesa do sector**

**automóvel pretende abrir uma linha de montagem em Angola?**

Para haver uma indústria automóvel instalada num país temos de ver vários factores, como a dimensão do mercado, a competitividade (custo - benefício), formação, tecnologia e o acesso às divisas. É o empresário quem decide, mas, em função da realidade económica de Angola hoje, acho que nenhum empresário japonês decidiria instalar uma fábrica automóvel sem estas condições. Mas, no futuro, pode ser que as coisas mudem. O que é para já é a criação, pela Toyota de Angola, de uma academia de formação, em Outubro, no Cazenga (Luanda), com a colaboração dos Governos do Japão e do Brasil. A Toyota vai formar técnicos angolanos. Pode ser que, com isso, haja um ambiente favorável para instalar uma linha de montagem em Angola, mas, como disse, depende dos factores que mencionei atrás.

**No continente africano, em que lugar o Japão coloca Angola nas relações com outros países?**

Não posso garantir quem está em primeiro ou em segundo lugar. As relações bilaterais não funcionam assim, mas Angola é um dos poucos países da África subsaariana visitados recentemente pelo nosso ministro dos Negócios Estrangeiros, e o único país da Comunidade de Desenvolvimento da África Austral (SADC) onde esteve o nosso ministro. Por aí, podemos ver a importância que o Governo do Japão dá à cooperação com Angola.

**PERFIL**



**NOME:**

Hironori Sawada

**Formação académica:**

Licenciado pela Faculdade de Estudos Estrangeiros (Iuso-brasileiro), Universidade de Estudos Estrangeiros de Tóquio, em 1980.

**Funções desempenhadas:**

- Coordenador sénior da Divisão de Recursos Humanos do Ministério dos Negócios Estrangeiros, em 2015.
- Cônsul-geral adjunto em Chicago, Estados Unidos, em 2010.
- Conselheiro político da Embaixada do Japão no Brasil, em 2007.
- Director adjunto da Divisão da América Latina ( Direcção dos Assuntos Latino-Americanos e Caraíbas), em 2004.
- Director adjunto da Direcção de Coordenação da Política Externa, em 2001.

M. MACHANGONGO | EDIÇÕES NOVEMBRO

